

Oracle Database 10g Express Editionは どこまで使えるか？

10gR2相当の無償DB試用レポート

初音 玲

HATSUNE, Akira

はじめに

最近の開発ツールは、“Express Edition”と名づけた無償版を用意して、使える人の裾野を広げるのが流行のようだ。この傾向は、マイクロソフト社に限らずオラクル社も「Oracle Database 10g Express Edition」を投入することで、ますます拍車がかかっている。

Oracle Database 10gといえば、システム構築の世界では、デファクトスタンダードとも言えるRDBMSの最新版

だ。システム構築の現場で使われることも多いが、個人で購入するには価格や難易度の印象からか決断が必要な製品でもあったので、無償版の提供は、まさに開発者が待ち望んでいた製品なのではないだろうか。

本稿では、その入手方法からインストールする上での注意点、有償版と本質的な部分で相違があるか、そして、Visual Basic 2005 Express Editionと組み合わせるRDBMSアプリケーション作成体験ができるか、などを検証してみる。

入手先について

2006年7月末現在、Oracle Database 10g Express Edition (以下Oracle XE)は、米国のオラクル本社のOracle Technology Network (以下OTN) サイト^[注1]からのみ入手できる。

米国のOTNからダウンロードするためには、米国のOTNへ登録しなければならないが、もちろん無料で登録できるので、この機会に登録することをお勧めする。

OTNからダウンロードできるOracle XEには、

- ・ Linux (Western European)
- ・ Linux (Universal)
- ・ Windows (Western European)
- ・ Windows (Universal)

注1) <http://www.oracle.com/technology/software/products/database/xe/index.html>

レベル >>> Level

1 2 3 4 5

ツール >>> Tool

- Visual Basic 2005 Express
- Oracle Database 10g Express Edition

言語 >>> Language

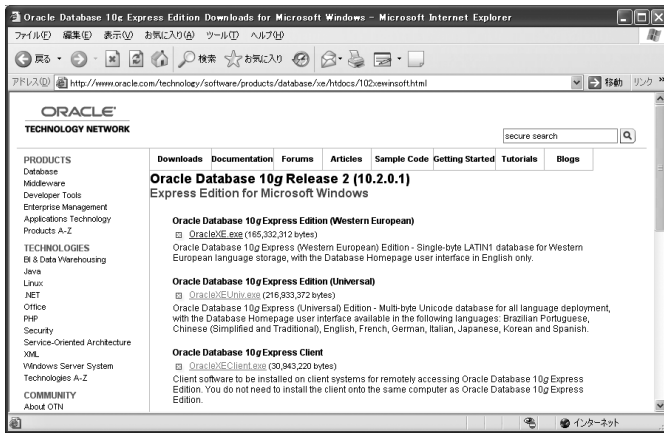
- Visual Basic

サンプル >>> Sample

この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、
<http://www.shoeisha.com/mag/windev/>からダウンロード可能です。

[注意] VS2005対応のODP.NETは8月22日付けで日本のOTNのサイト (<http://otn.oracle.co.jp/software/tech/windows/odt/index.html>) からダウンロードできるようになりました。

図1：米国OTNのダウンロードページ



の4つのタイプが用意されている。本稿では「Windows (Universal)」をダウンロードしてみることにする。なぜならば、Universal版は、図1にあるようにUnicodeが使える版であり、日本語 (Japanese) にもきちんと対応しているからだ。

インストール

ダウンロードが完了するとダウンロード先フォルダに「OracleXEUniv.exe」ファイルが作成される。このファイルをダブルクリックしてインストーラを起動すれば、いよいよOracle XEのインストールの開始となる^[注2]。

日本語対応済のUniversal版であるだけあって、使用許諾書の本文こそ英語 (図2) だが、インストールに関するその他の部分は、きちんと日本語化されているので、不安を抱かずにインストールを進めることができるだろう。小さなことだが、初めて触れる人をターゲットにするならば必要な配慮だ。

最近のOracleデータベース製品は、統一されたフォルダ構造でインストールされる。たとえば、Oracle Database 10g Release 2であれば、

注2) ディスクの空きは、最低でも1.7Gバイトくらい必要。

図2：インストーラの使用許諾条件確認画面

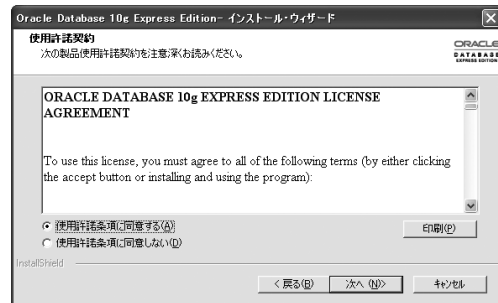
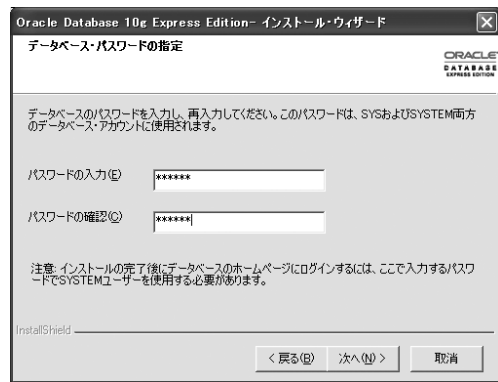


図3：パスワードの指定



¥oracle¥product¥10.2.0

フォルダの下に製品がインストールされる。Oracle XEのフォルダ構造は、意図的に変更しており、

¥oracleexe

フォルダの下に製品がインストールされるため、有償版のものとは明確に区別がつくように考慮されている。

使用許諾に同意してインストールを開始すると図3のようにデータベースパスワードを指定する画面が表示されるので、パスワードを指定する。ここで指定したパスワードはインストール後のデータベースの管理などで使用するので、簡単に類推できないが忘れないものを指定しよう。

Oracle XEのインストールが完了すると、Windowsの「スタート」には、図4のようなメニューが追加され、Win